

I. 家庭での生活の様子

保護者は最大限の努力をしているものの、家庭内での運動や読書は困難であり、状況は深刻である。福祉や教育による家庭支援が急務である。

家庭ことは、保護者や地域・福祉の分野であるが、今は、目の前の子供たちのために、学校ができることを、すぐに実行すべきと考える。

「■」 緊急課題

「→」 具体的な方策

「▽」 そのための問題

子供だけで在宅・・・2割

■子供には大人の目が必要

→ 学校での「あずかり」を拡大する。

▽ 教員以外の人員が必須。

昼夜逆転・・・2割

■生活習慣を絶対に崩さない

→ 崩れている児童は、朝、登校させる。

▽ 保護者の理解と協力が不可欠。

極端な運動不足・・・9割

■人間の根源である運動と読書を確保する

→ 校庭と図書館の個別利用を行う。

登校の安全。3密の回避が困難。

現時点では、認められない。

極端な読書不足・・・10割

極端なネット依存・・・5割

■人間崩壊に直結するネット依存を阻止する

→ 学校としてネット利用時間を制限する。

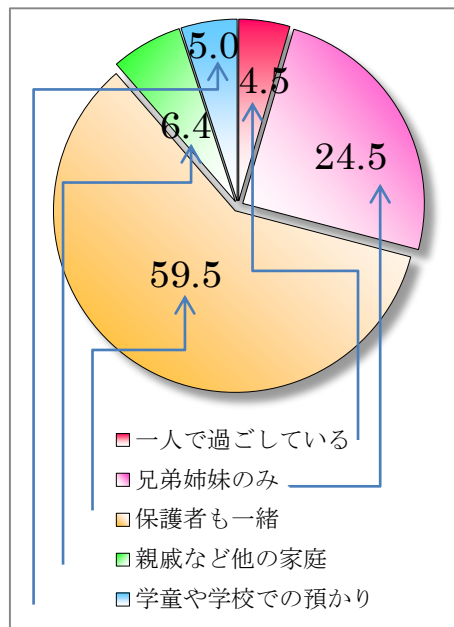
▽ 保護者の理解と協力が不可欠。

【生活状況】

子供だけで在宅・・・2割

○各家庭で最大限の工夫をしている。

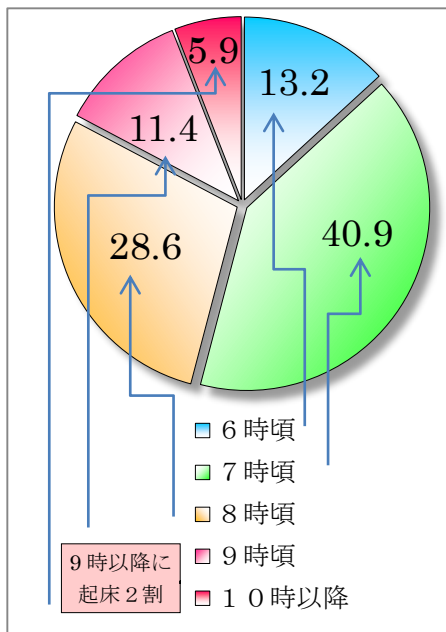
○低学年の1人在宅はゼロ。



9時以降に起床・・・2割

○5割は8時前に起きている

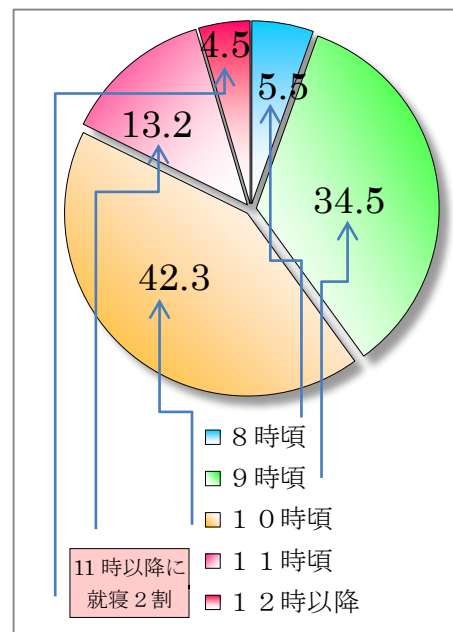
○昼前後に起きる児童もいる。



11時以降に就寝・・・2割

○4割は10時前に寝ている。

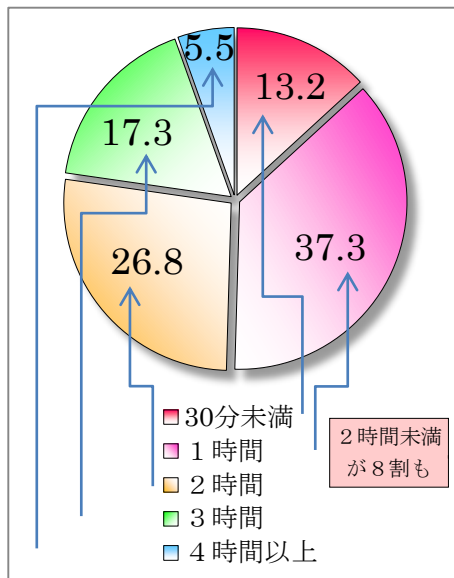
○零時以降に寝る児童もいる。



【生活・学習習慣】

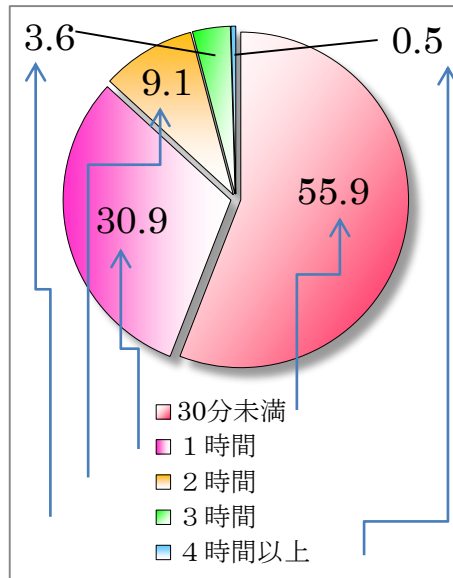
極端な学習不足・・・8割

- 学校の5～6時間授業と比較して
極端に学習時間が減少している。
- 4時間以上はわずか0.5割。



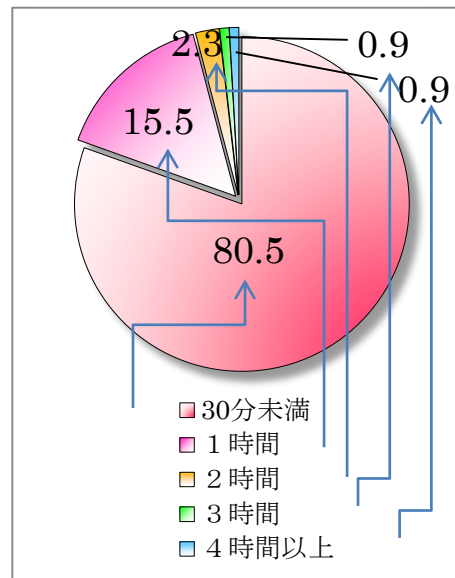
極端な運動不足・・・9割

- 6割の児童が30分未満と回答、
ほとんど体を動かしていない。
- 自主的な運動習慣は望めない。



極端な読書不足・・・10割

- 8割の児童が30分未満と回答、
ほとんど本を読んでいない。
- 自主的な読書習慣は望めない。

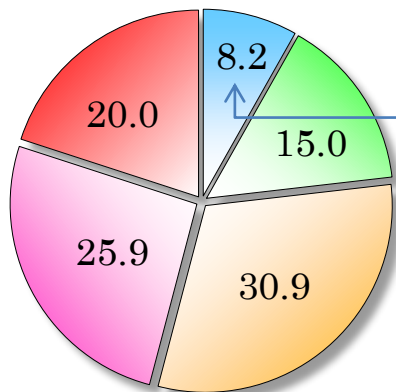


【コミュニケーション】

極端なネット等依存・・・5割

○半数の児童が3時間以上も依存。

○1日中ネットの児童がいる。



30分未満

1時間

2時間

3時間

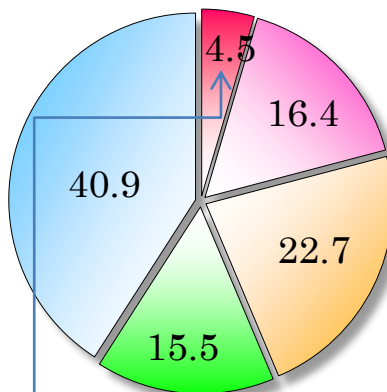
3時間以上
が5割も

4時間以上

家族の会話・・・9割

○家族の会話は十分と思われる。

○30分未満の家族が0.5割。



30分未満

1時間

2時間

3時間

4時間以上

【食生活】

毎日の朝食・・・？割

○朝食の割合

○料理・片付けの割合

次回、調査予定